子宮頸がんとヒトパピローマウイルス

ご存じですか？「子宮頸がん」のこと。

KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／（社）京都府医師会
これだけは知っておきたい
健康の知識
VOL.58

子宮頸がんは検診で
見つけやすいがんです。

子宮頸がんは
「予防できるがん」です。

20歳になったら
定期的な子宮頸がん検診を受けましょう。

ワクチン接種と定期検診で子宮頸がんを予防しましょう。

子宮頸がん（しきゅうけいがん）とヒトパピローマウイルス

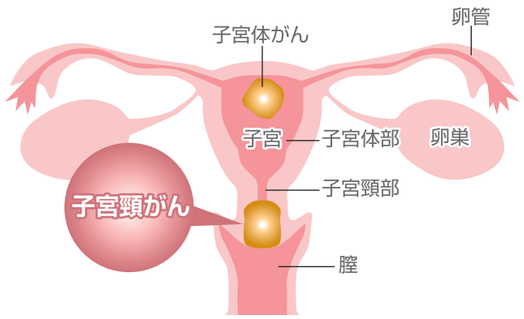
子宮頸がんとは？

子宮頸がんは子宮の入り口にできるがんです。

世界では1年間に約27万人が子宮頸がんで亡くなっているとされ、これは2分間に1人の方が子宮頸がんで命を落としていることに相当します。

日本でも女性特有のがんのうち乳がんの次に多く、1日に約7人の女性が子宮頸がんで亡くなっています。特に最近は20歳代、30歳代の若い女性で子宮頸がんに罹る方が増えており、治療を受け命が助かっても赤ちゃんを産めなくなるという問題も起こっています。

子宮頸がんの部位



子宮頸がんの主な原因は？

子宮頸がんは発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因です。

発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)は多くの女性が一生のうち一度は感染するごくありふれたウイルスで、発がん性HPVに感染しても多くの場合、感染は一時的でウイルスは自然に排除されます。

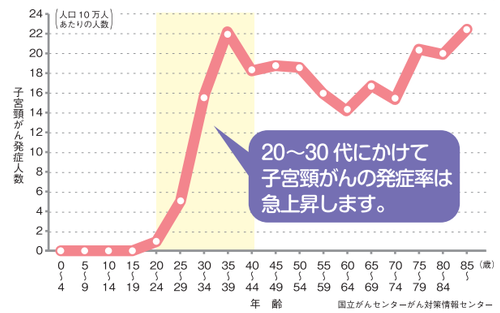
しかし、時に感染が長く続く場合があり、そのうちの一部の方に子宮頸がんが発症します。

現在、約15種類の発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）が知られていますが、そのうち頻度が高いHPV16型とHPV18型と呼ばれる2種類をあわせると、子宮頸がんを発症している女性の約70%から見つかるとされています。

すなわち、子宮頸がんのうち約70%が、HPV16型またはHPV18型の感染が原因で起こるのです。

発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）に感染してから子宮頸がんになるまでには、通常数年～数十年かかるので、定期的な子宮がん検診を受けていれば、早期に発見し治療することが可能です。

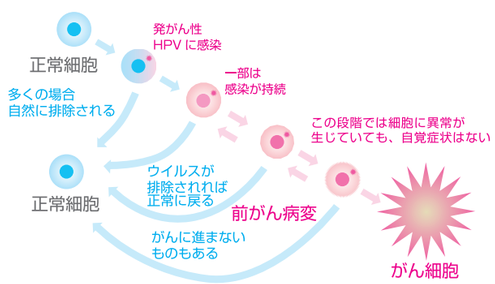
日本人女性における子宮頸がんの発症状況（2001年）



子宮頸がんは20～30代で急増します。

- 子宮頸がんは初期の段階ではほとんど自覚症状がないため、しばしば発見が遅れます。
- 子宮頸がんは20～30代で急増しています。
- 日本人では年間約15,000人の女性が発症していると報告されています。

発がん性HPV感染とがん細胞への変化



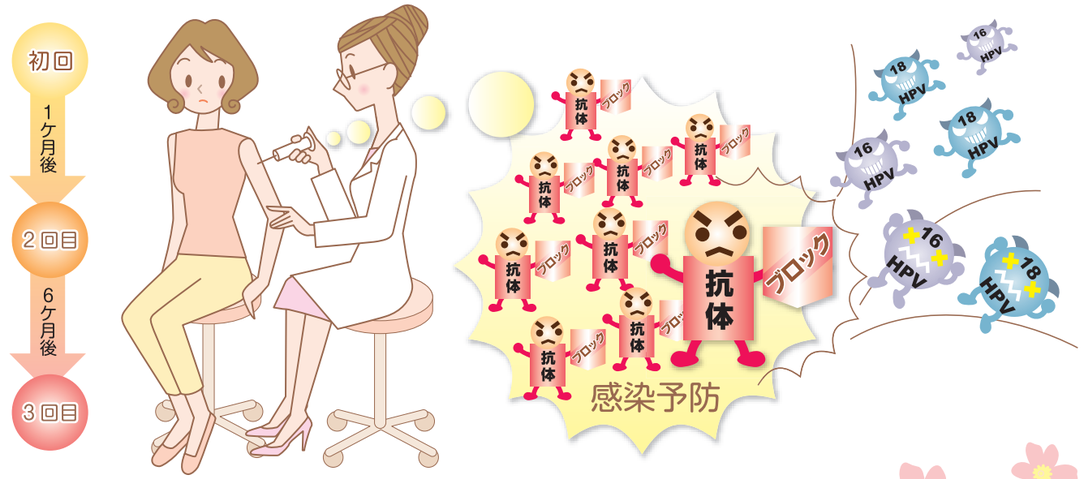
子宮頸がん（しきゅうけいがん）は発がん性 ヒトパピローマウイルス（HPV）への持続感染が原因といわれています。発がん性 HPV に感染しても多くの場合、自然に体外へ排除されますが、一部は感染が持続し、がん化するといわれています。定期的な検診により、異常が生じた細胞を早く発見することができます。

子宮頸がんの予防について

発がん性HPV16型、18型の感染を予防するワクチンがあります。

子宮頸がんの原因として最も多い2種類のHPV（16型と18型）の感染を予防するワクチンが2009年12月から接種できるようになっています。このワクチンはHPV16型と18型への感染を予防することで、将来の子宮頸がんの発症を予防することを目的としたワクチンです。

ワクチンは腕の筋肉に注射し、3回（初回、1か月後、6か月後）接種することが必要です。ワクチンの効果は、2011年2月現在で約7年の観察期間しかないので、今後の推移を見る必要がありますが（約7年の効果持続は確認済み）、理論的には20年以上は効果が持続するだろうと推測されています。

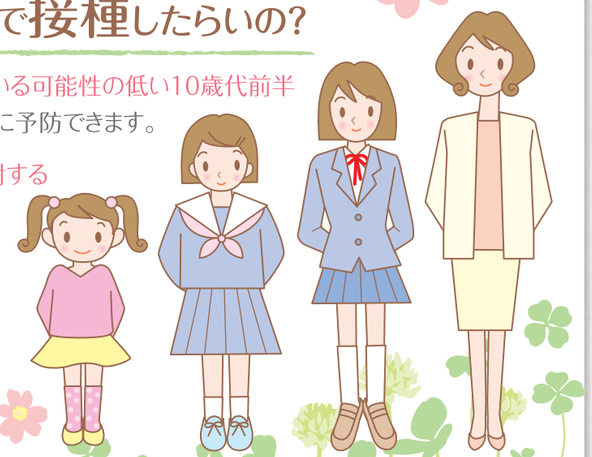


子宮頸がん予防ワクチンは何歳で接種したらいの？

発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）に感染している可能性の低い10歳代前半に接種することで、子宮頸がんの発症を最も効果的に予防できます。

2011年1月から中学1年生～高校1年生の女子に対する子宮頸がん予防ワクチンの公費負担事業が開始されています。
詳しくは、お住まいの市町村にお尋ねください。

最も効果の高い年齢は10歳代前半ですが、それ以降の年代でも予防効果はみられるとされ、45歳までの婦人では接種が推奨されています。



KYOTO MEDICAL ASSOCIATION
Be Well
医師会からの健康だより
■発行／（社）京都府医師会
これだけは知っておきたい健康の知識
VOL.58

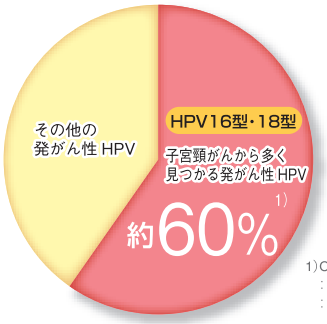
これからも子宮頸がん検診は大切です…。

現在の子宮頸がんワクチンで予防できるのはHPV16型とHPV18型が原因となっている子宮頸がんで、日本人では子宮頸がん全体の6割くらいといわれています。

このワクチンは他の型の発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）による子宮頸がんを予防することはできず、ワクチンを接種すれば完全に子宮頸がんが予防できるというわけではありません。また、すでに感染しているHPVを排除することや、前がん病変やがんを治療することはできません。

ですから、**ワクチンを接種した後も、子宮頸がん検診を受けることは大切なことなのです。**

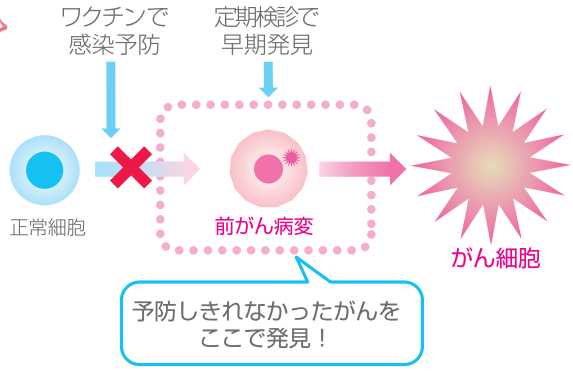
日本人子宮頸がん患者の発がん性 HPV 感染率



1）Onuki M et al.
：Cancer Sci 100（7）
：1312-1316,2009

100種類以上あるHPVのうち、子宮頸がんの原因となるのは約15種類です。なかでも、HPV16型と18型は特に20～30代の若い子宮頸がんの患者さんから多くみつかっています。子宮頸がん予防ワクチンの接種により、このHPV16型、18型への感染をほぼ100%防ぐことができます。このワクチンは、すでに世界100カ国以上で接種されています。

ワクチンと検診による子宮頸がんの予防



公費負担でワクチンの接種を受けられる中学1年生～高校1年生の方々も、
20歳になったら必ず定期的な子宮頸がん検診を受けましょう。

また、ワクチンを受けない方や事情で受けることのできない方も、検診は必ず受けておくことをお勧めします。
各市町村では、20歳以上の女性に子宮がん検診を実施しています。詳しくは、お住まいの市町村にお尋ね下さい。

子宮頸がんは検診で見つけやすいがんです。

また、早期に見つければがんになる前に治療が可能です。

ワクチンの接種と検診で、
子宮頸がんからより確実にあなたの体を守りましょう。

京都府医師会
〒604-8585 京都市中京区西ノ京栂尾町3-14 TEL:075-354-6101（代表）
＜ホームページ＞http://www.kyoto.med.or.jp ＜E-mail＞ kma26@kyoto.med.or.jp
●発行 SPRING 2011●